



46-1 トルコ国軍艦遭難者慰霊祭(1)

46 トルコ国軍艦遭難者慰霊祭写真(各種写真 水害・名古屋城・其他)より

明治二十四年(二八九〇) 全四枚のうち 三の丸高蔵館

47 土国軍艦エルトグロウ号難破ヶ所見取概略

(明治二十三年 外資接待録二より) 和歌山県

明治二十三年(二八九〇) 一枚 宮内公文書館

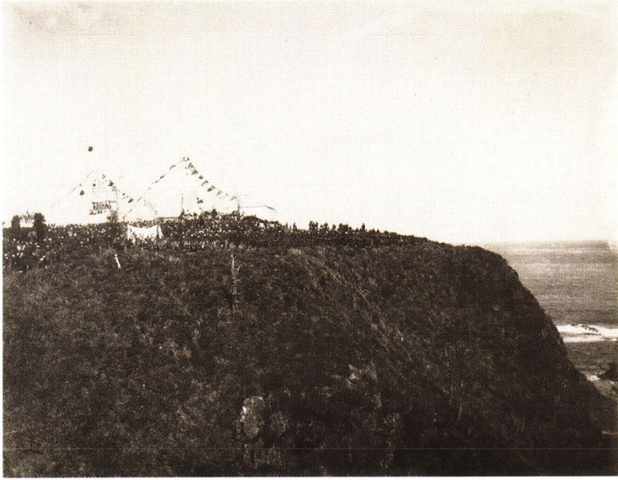
トルコ国の軍艦エルトグロウ(エルトゥール)号は、明治二十年の小松宮彰仁親王・同妃の同国訪問の答礼のため、明治二十三年來航。六月十三日、司令官オスマン・パシヤを特使とする一行は、明治天皇の謁見を受け、皇帝アブデュルハミト二世の親書を捧呈し、同国最初の親善訪日使節団として歓迎を受けた。

同艦は、その帰途の九月十六日午後九時頃、現在の和歌山県串本沖にある、紀伊大島の樫野埼東方海上において、折からの台風による強風にあおられ樫野崎に連なる岩礁に激突、座礁した後、水蒸気爆発を起こして沈没した。これにより乗組員約六百五十名が海へ投げ出された。「外資接待録」には、九月二十三日の時点で、パシヤ特使を含む五百八十一名が死亡したという和歌山県の報告が綴られている。遺体は炎暑のため、すみやかに近傍に埋葬された。埋葬地は、同資料掲載の「土国軍艦エルトグロウ号難破ヶ所見取概略」に記載されている。

一方、地元の東牟婁郡大島村(現串本町)樫野の住民は救助に努め、六十九名が救出され、神戸に移送された。明治天皇は、式部官丹羽龍之助・侍医桂秀馬を御差遣になり、可能な限りの援助を行うよう指示を出された。また、皇后(昭憲皇太后)も負傷者全員に衣類を贈られた。

遭難事故二十日後の十月五日、海軍の「比叡」と「金剛」は東京の品川湾から出航、神戸で生存乗員を分乗させ、翌年一月二日、同国の首都イスタンブールに送り届けた。

事件後、民間の潜水業者により遺品・遺骨の回収が行われ、明治二十四年三月七日には、大島村において追吊祭典(慰霊祭)が、同村(村長沖園)並びに潜水業者によって営まれたこと、和歌山県はこの報告に併せて現場写真一揃を宮内大臣・侍従長・外事課長宛に一部ずつ寄贈したことが、前出の「外資接待録」よりわかる。写真帖「各種写真 水害・名古屋城・其他」には、同事件慰霊祭の写真四枚が収められているが、同写真はのち侍従長宛のものと考えられる。



46-3 トルコ国軍艦遭難者慰霊祭(遠景)



46-2 トルコ国軍艦遭難者慰霊祭(2)



46-4 トルコ国軍艦難破場所を望む

47 土国軍艦エルトグロー号難破ヶ所見取概略(部分)

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治天皇 邦を知り国を治める——近代の国見と天皇のまなざし

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 67

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

黒川廣子

翻訳 宮内庁

発行 宮内庁

平成二十七年一月十日発行

© 2015, The Archives and Mausolea Department
The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan
Imperial Household Agency